

0.1 放水路（H-Q テーブル）モジュール

以下に、モジュールの仕様概要と操作手順を示す。

表.1 モジュールの仕様概要

No	項目	内容
1	DLL 名	McFloodwayHQtable. DLL
2	概要	設定した水位～流量関係に従い本川と放水路の流量を設定する
3	送受信のパターン	受信 ①水位（本川の水位） 伝送仕様：1次元時系列 セル内変数：WATER_LEVEL (m)
		送信 ①流量（本川の流量） 伝送仕様：1次元時系列 セル内変数：QUANTITY_OF_WATER_FLOW (m ³ /s) ②流量（派川（放水路）の流量） 伝送仕様：1次元時系列 セル内変数：QUANTITY_OF_WATER_FLOW (m ³ /s)
4	接続方法	受信 ・要素接続は、1次元時系列で行い、水位を入力する。 ・上記以外の接続は、できません。
		送信 ・要素接続は、1次元時系列で行い、流量が出力される。 ・上記以外の接続は、できません。
5	基礎式	なし
6	備考	
7	サンプルプロジェクト	・放水路（H-Q テーブル）モジュール.prjdb

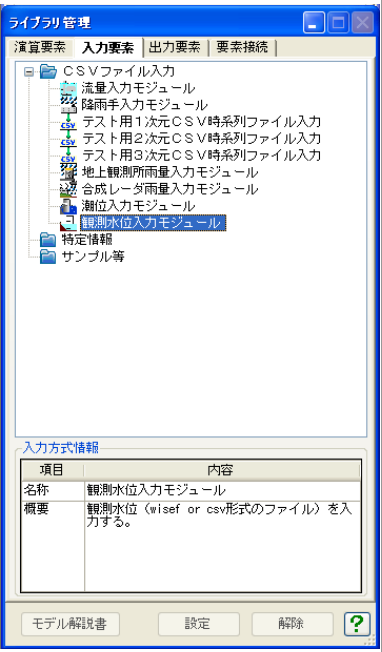
(1) 流量出力パターンの場合

1) モデル接続

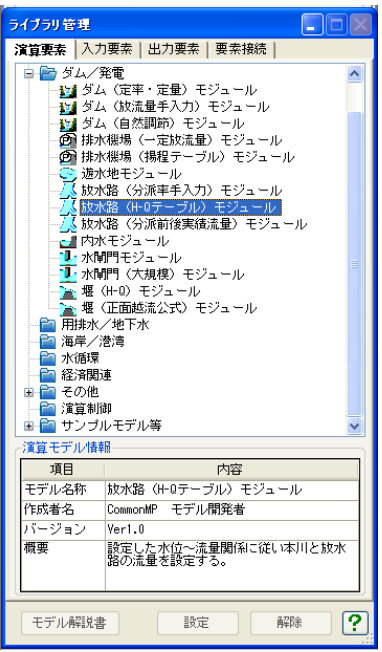
モデルの接続方法を、以下に示す。

①要素の配置を行い、下図に示すモジュールを設定する。

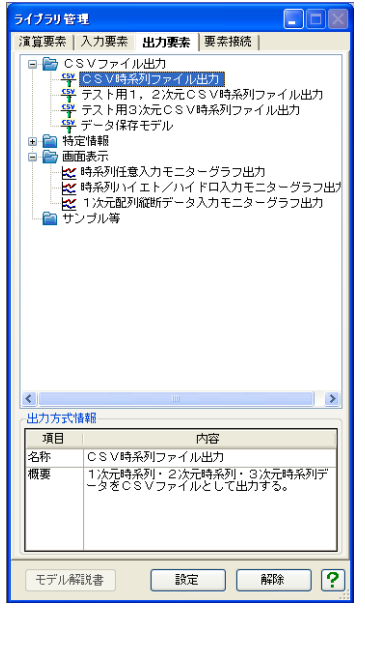
カテゴリーが入力要素の
観測水位入力モジュールを設定



カテゴリーが演算要素の
放水路 (H-Q テーブル) モジュールを設定



カテゴリーが出力要素の
CSV 時系列ファイル出力モデルを設定



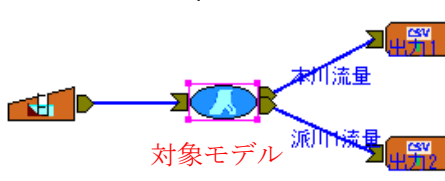


図.1 モデル接続

②要素接続は、以下の通り設定する。

【受信側】

※本画面は要素接続時にダブルクリック、または右クリックメニューから表示を行う

図.2 要素接続（受信側）

【送信側】

※本画面は要素接続時にダブルクリック、または右クリックメニューから表示を行う

図.3 要素接続（送信側）

2) パラメータ設定画面

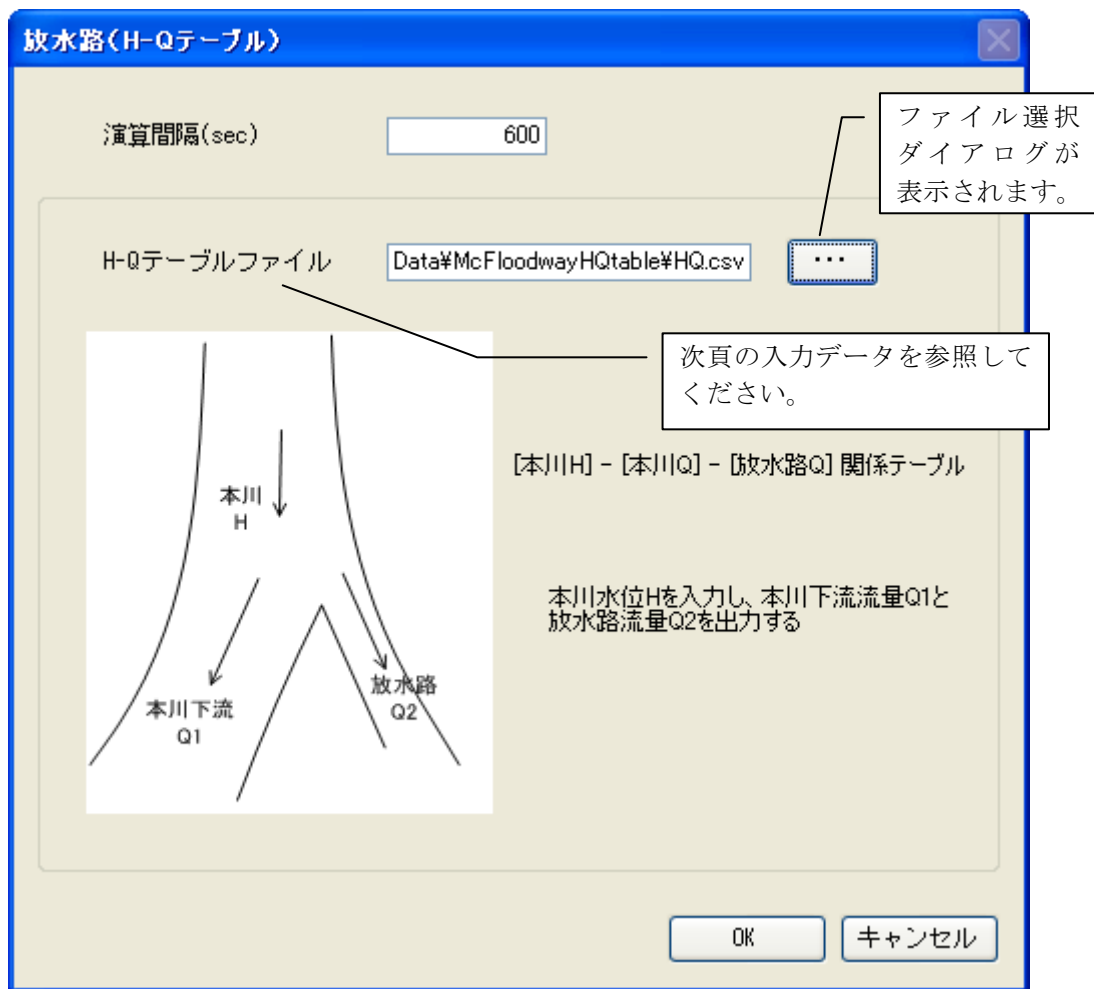


図.4 個別 GUI レイアウト図 (放水路 (H-Q テーブル) モジュール)

3) 入力データ

1次元時系列の水位データを入力する。

時間	0
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	<input type="text" value="水位"/>
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	<input type="text" value=":"/>
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	<input type="text" value=":"/>
:	:
:	:

<HQ テーブルファイルの例>

```
H-Q 組数,5,  
本川 H, 本川下流 Q, 放水路 Q  
0,      10.2,  5.1  
1.5,    10.4,  5.2  
2,      10.6,  5.3  
2.5,    10.8,  5.4  
3,      11,    5.5
```

ヘッダーにデータ数を
指定する

図.5 入力データフォーマット

4) 出力データ

1次元時系列の流量データが出力される。

時間	0
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	<input type="text" value="流量"/>
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	<input type="text" value=":"/>
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	<input type="text" value=":"/>
:	:
:	:

図.6 伝送データイメージ